



市議会議員選挙に向けて行った「公開質問状」の回答から

図書館政策の今後に期待する

町田の図書館活動をすすめる会 鈴木 真佐世

市長候補の回答については前号巻頭で当会の守谷が述べましたので、今号では、市議会議員候補の回答まとめを分析し、図書館を守る今後の活動にどのようにつながられるかを考えたいと思います。以下の会派別集計は、連絡先が公開されていた市議会議員候補の中で、回答を下さった当選者 23 名の集計となっています。自由記述を含めた候補者の個別の回答については、当会ホームページのニュースのページをご覧ください。

<https://machida-library.jimdofree.com/%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9/>

町田市議会議員選挙に際して行った図書館に関する公開質問状の回答まとめ（選挙後に当選者を新会派別に再集計）

質問項目	問1 市立図書館のあり方について											問2 学校図書館のあり方について																																					
	(1)町田の図書館がどうあるべきか？当てはまるもの					(2)図書費			(3)アクションプラン			力を入れるべき点																																					
	① 今以上の充実が必要	② 充実が必要	③ 指定管理者制度など民活が必要	④ 効率化を図りつつ直営	⑤ 資料提供や読書推進によりにぎわいや交流の拠点の機能を	⑥ ペストセラーや文庫本より高価な本を中心に揃えるべき	⑦ 市民が必要とするあらゆる資料・情報を無料で提供する	⑧ 図書館職員には専門職としての司書を採用・配置する	⑨ 図書館職員は必ずしも司書である必要なし	⑩ その他	⑪ 早急に大幅な増額をすべきだ。	⑫ その他	⑬ 可能なさらさらに圧縮する必要がある。	⑭ 今後の財政運営等を考慮すると、当面低くても止むを得ない。	⑮ せめて多摩地域各市の平均まで増額すべきだ。	⑯ その他	⑰ ①「アクションプラン」通りに進めるべきだ	⑱ 実施済み以外は改めてプランの妥当性を再検討すべき	⑲ ②「紙に戻し、新たな図書館振興プランを策定するべき	⑳ ③「日紙に戻し、新たな図書館振興プランを策定するべき	㉑ ④「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉒ ⑤「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉓ ⑥「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉔ ⑦「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉕ ⑧「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉖ ⑨「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉗ ⑩「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉘ ⑪「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉙ ⑫「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉚ ⑬「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉛ ⑭「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉜ ⑮「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉝ ⑯「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉞ ⑰「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㉟ ⑱「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊱ ⑲「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊲ ⑳「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊳ ㉑「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊴ ㉒「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊵ ㉓「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊶ ㉔「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊷ ㉕「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊸ ㉖「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊹ ㉗「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊺ ㉘「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊻ ㉙「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊼ ㉚「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊽ ㉛「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を	㊾ ㉜「図書指し渡しの代わりによりにぎわいや交流の拠点の機能を
会派別人数	0	7	0	0	0	2	7	8	0	1	1	7	0	0	1	0	8	0	0	7	2	3	6	2	0																								
まちだ市民クラブ (9名中8名)																																																	
公明党 (6名中0名)																																																	
自民党(5名中3名)	0	0	2	0	0	1	2	1	0	1	1	1	1	0	0	0	3	0	0	2	0	1	1	2	0																								
選ばれる町田(5名中3名)	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	1	0	1	0	1	1	1	0	0	2	1																								
共産党(4名中4名)	0	4	0	4	0	0	3	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	0	4	1	0	4	3	0																								
無所属(3名中3名)	0	1	2	0	0	2	1	2	0	1	1	2	0	0	1	0	1	1	1	2	1	2	0	2	1																								
諸派(4名中回答2名)	0	0	0	0	0	0	0	1		1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0																								
合計(36名中23名)	0	12	6	4	0	5	13	17	0	5	7	12	1	0	4	0	13	5	3	16	5	6	11	12	2																								
石阪市長の回答			○	○								○			○								○	○																									

選挙後の新しい会派名簿が町田市議会ホームページに掲載されましたので、新会派別に回答をまとめて

みました。3月から始まった市議会では、今まで最大会派であった自民党が従来の自民党と「選ばれる町田を

つくる会」という名前の新会派に分かれたため、まだ市民クラブが最大会派になりました。各会派の中で公明党の6名の議員の方からはひとつも回答をいただけなかったことは大変残念でした。

23名のみなさんの回答と今回5期目となった石阪市長の回答を比較しながら見てみたいと思います。

問1(1)の町田の図書館がどうあるべきかという問いに対しては、「図書館職員に司書を採用・配属」が17名と最も多く、次いで「市民が必要とするあらゆる資料を無料で提供」、「図書館の充実が必要」という回答が多いのはうれしい結果です。

市が推し進めようとしている図書館ににぎわいを求める案に丸を付けている議員はゼロです。

運営方法については、民活を求める議員は6名と少なめですが、と言って私たちが願っている「効率化を図りつつ直営」を選んだ議員が4名だけであったことは大変残念であり、この案の周知が不足しているとも感じました。どちらにも丸をつけなかった方々がどのようにお考えなのかも知りたいところです。

(2)の図書費については、東京市区部の中で最低の図書費を「せめて多摩地域各市の平均にまで増額すべき」が支持され、市長の回答である「財政状態を考慮すると低くてもやむなし」はほとんど支持されていないのは注目すべき点です。予算編成の3月議会で議員の方々にも頑張ってくださいと思います。

(3)のアクションプランについては、市長の回答である「図書館アクションプランを進めるべき」を支持する市

議は一人もおらず、「実施済み以外は改めてプランの妥当性を再検討すべき」という回答が13名、「白紙に戻し、新たな図書館振興プランを策定すべき」が5名、合わせると18名の方がアクションプランの見直しを求めています。図書館を減らす計画を含め、現在の市の方向性は多くの市民にも議員にも支持されていないのですから、見直しを図っていただきたいと思います。

問2の学校図書館で力を入れるべき点については、「学校図書館の図書購入費を十分に措置する」が16名で最も支持されましたが、その他、「ICT活用に対応できる環境と人材の整備」と「図書指導員の代わりに学校司書の公募、配置」について多くの支持を集め、この点は初めて市長と市議の回答が一致したと言えます。町田市教育プラン2019-2023に挙げられながら、予算の関係で計画通りに進んでいない学校司書の配置を市が今後、強力で前進させることを期待したいと思います。

図書館は市民の身近な文化教育機関であり、コロナ下においては、ますます重要な存在になっています。また、子どもにやさしい町田市を標榜するなら、学校と図書館が身近にあることは欠かせません。今回の調査で、各会派に図書館を大事に思う議員の方々がいっぱいしゃることもわかりました。ぜひ、党派を超えて議員のみなさんと市民が共に図書館の充実を目指した集まりを持ち、国会議員の「活字文化議員連盟」のように図書館をよりよくするため活動できることを期待したいと思います。

(副代表、鶴川図書館大好き！の会事務局)

こんな本見〜つけた！(第35回)

『おさるのジョージ としょかんへいく』

M.レイ(原作) H. A.レイ(原作) マーサ・ウェストン(画)

福本 友美子(訳) 岩波書店 2006年 紹介:雲中 あみ

絵本を読んだことやアニメーションを見たことがある方も多いのではないのでしょうか。かわいいごさるの「ジョージ」が、「きいろいぼうしのおじさん」と色々な体験をする様子を描く「おさるのジョージ」シリーズの一作です。1947年に発行された絵本「ひとまねごさる」シリーズを原案として、1998年から「おさるのジョージ」シリーズが出版されました。シリーズを通して『がっこうへいく』、『パンケーキをつくる』、『とつきゅうにのる』、『えいがを



みる』などの日常生活が描かれています。日常生活を描いた絵本ではありますが、ジョージはいつも小さなハプニングを起こしてしまいます。

『としょかんへいく』では、ジョージはおじさんにとしょかんに連れて行ってもらいます。テーブルで本を読んでいるみんなの横を通って、「おはなしのじかん」が行われている「こどものへや」に二人はたどり着きます。お

じさんはジョージを置いてほかの部屋へ、ジョージはこどものへやで子どもたちと一緒に絵本の読み聞かせに耳を傾けます。はじめおとなしくしているジョージですが、読み聞かせのお姉さんの後ろのテーブルにある恐竜の絵本に気付いてから落ち着きをなくしてしまいます。恐竜が大好きなジョージは、その絵本を読んでもらうのを待ちますが、なかなか読んでもらえません。待ちきれずついには恐竜の絵本を手に取り、部屋を出て行ってしまいました。ジョージはおじさんに絵本を読んでもらおうと館内を探しながら、書棚から気になる本をどんどん手に取っていきました。途中で見つけたブックトラックいっぱい本を載せて出口に向かいましたが、スロープでブックトラックは滑り出し、百科事典の棚に衝突。たくさん本が散らばってしまいました。図書館のお兄さんが頭を抱えていると、子どもたちが片付けるのを手伝い始めました。ジョージもお気に入りの本3冊を残し、他の本の片付けを手伝いました。そして、お兄さんに利用カードを作ってもらい、きいろいぼうしのおじさんとカウンターで貸し出しの手続きをして、おうちで二人で絵本を楽しみます。

この絵本の表紙は明るい黄色ですが、本文は少し落ち着いた色合いが使われています。どのページも背景を密に描き込むことはなく、白い部分が効果的に残さ

れています。鉛筆や筆のタッチが残る描き方も、優しく穏やかな印象を受けます。「ひとまねごころ」シリーズの作者のハンス・アウグスト・レイは、引越先ではまず動物園に行くほどの動物好きで、彼の作った絵本は全て動物が主人公だと著者紹介に書かれています。一緒に本を作っていた妻マーガレット・レイは、ドイツで美術教育を受けました。「おさるのジョージ」シリーズは、夫妻が直接携わったものではありませんが、二人の本作りへの思いと動物への愛情と確かな技術が引き継がれているのが見て取れます。

幼少期に「ひとまねごころ」と「おさるのジョージ」の何冊かを読んでいました。今回の寄稿に際して改めてこの絵本を手に取りましたが、静かに本を読む人々、新聞を読む人、別室での絵本の読み聞かせ会、貸出カードの発行。図書館にまだ行ったことのない子どもでも館内の様子がわかるように、細かく、けれどもシンプルに描かれていることがわかります。貸出カウンターで貸出票と思われる紙片に館員の女性がスタンプを押しているという懐かしい描写もあります。

子ども向けのシリーズではありますが、幅広い年代の方にお手に取っていただけたらと思います。

(市民文学館ことばらんど)

* 町田市立図書館は、8冊所蔵しています。

町田市立図書館における全政党機関紙購入中止と「知る権利」の侵害①

伊藤 裕夫 (町田市民)

1. 問題提起

町田市立図書館では2021年4月から全政党機関紙(赤旗を含む)購入を中止した。異例のことなのでこれについて考えてみたい。まず筆者が行った新聞での問題提起を引用する。

「図書館に政党機関紙を」

町田市立中央図書館は三十年来閲覧に供してきた政党機関紙(自由民主、公明新聞、赤旗など)の購入を昨年三月末で中止しました。

その理由は「図書館資源の再配分を検討の結果、政党機関紙は優先順位が低い」から。言うまでもなく政党議員は議会を通じて国民生活にかかわる重要な事柄を決定しますので、政党の主張・活動を知ることは極めて重要です。それゆえ町田市は議員選挙に際しては

各政党議員候補者の主張、活動を記載した選挙公報を図書館などに置き、各戸に配布しています。

今回の中止決定は、政党の主張や日常活動を詳しく記載する政党機関紙は重要性が低いというのです。これは市民の知る権利をないがしろにしています。ちなみに近接する横浜市や川崎市では購入し、閲覧に供しています。(2022年2月17日「東京新聞」朝刊)

2. 市庁舎内での赤旗購入禁止と図書館による赤旗購入禁止要求

今回の購入禁止には町田市議会におけるある市議会議員の発言・要求が関連しているのではないかと、指摘を受けた。そこで市議会会議録を調べてみた。

(1) 市議会での〇議員の発言1

町田市議会において2019年に、〇議員から町田市

庁舎内での物品購入禁止に関連した質問が寄せられている。特に言及されているのが市庁舎内での市職員による赤旗購入ならびに町田市立図書館による赤旗購入についてであり、「市庁舎内での物品購入を禁じている規則に違反しているのではないか」という質問である。

市側は調査の結果、町田市庁舎内部、市立学校内では赤旗を購入している職員はいないと答弁している。また図書館での赤旗購入は資料としての購入であっていわゆる庁舎内で物品購入とは異なると答弁し、「図書館が政党機関紙を購入することは、業務上必要な物品を調達するということで、禁止事項としている館内での販売には該当しない」、さらに「本や新聞など、資料を購入しないとすれば図書館の業務が成り立たない」と答弁している。

その結果、町田市立中央図書館での資料としての赤旗購入は継続した。(2019 年第 4 回定例会町田市議会会議録第 30 号、12 月 9 日 p.349～351)

(2)市議会での〇議員の発言 2

〇議員は 2021 年において町田市立中央図書館での赤旗の購入状況を質問した。これに対して生涯学習部長は、「(前略)図書館では資料として、どのような新聞や雑誌を購入するかを定期的に検討しております。その検討の結果、赤旗を含む全ての政党機関紙につきましては、今年度、2021 年 4 月からの購入をしないことといたしております。」と答弁した。これに対して 〇議員は「図書館の購入禁止については、いろいろと大変だったと思いますが、ご努力をされて、今年の 4 月から購入を禁止されたということでもあります。大変慶賀の至りであります。ご努力ご苦労さまでございました。」と高く評価している。(2021 年第 2 回定例会町田市議会会議議事録第 16 号、6 月 15 日 p.289)

3. 購入中止と「図書館の自由」とのかかわり

今回の市立図書館における全政党機関紙の購入中止は、時系列的に見るならば、〇議員の赤旗購入禁止要求発言に対して、市側は 2019 年には正論で一度は拒否したものの、2021 年にはいわば発言に屈する形で問題をすり替えて、全政党機関紙(「赤旗」を含む)購入中止を決めたのではないか。そう勘ぐりたくなるようなタイミングである。万が一それが真相だとすれば、これは先に述べた「議員選挙情報への市民の知る権利への侵害」であるとともに、「図書館の自由に関する宣言」(1954 年採択、1979 年改訂、日本図書館協会)に述べられた「資料収集の自由」の放棄ではないかと考えられる。すなわち同宣言の「第1 図書館は資料収集の自由を有する」の2. では、以下のように述べている。

「図書館は、自らの責任において作成した収集方針に基づき、資料の選択及び収集を行う。その際、

(1) 多様な、対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する。

(2) 著者の思想的、宗教的、党派的立場にとらわれて、その著作を排除することはしない。

(4) 個人・組織・団体からの圧力や干渉によって収集の自由を放棄したり、紛糾を恐れて自己規制したりはしない。」

これを参考にする、今回の市立図書館による全政党機関紙の購入禁止は、

① 議員選挙にかかわる基本的情報提供拒否によって市民の知る権利を侵害している。

② 図書館資料は思想的立場などにとらわれず幅広く収集することや個人や組織からの圧力や干渉によって収集の自由を放棄したり、紛糾を恐れて自己規制したりはしないとの戦争期体験を踏まえた「図書館の自由」の精神に反して、市民の知る権利を侵害している。

鶴川地域の図書館を考える市民シンポジウム

「図書館は市民の宝物！」

日時:4月15日(金)18:20~21:30 開場:18:00 会場:和光大学ポプリホール鶴川(地下ホール)

資料代:500円 基調講演:辻由美さん(作家・翻訳家)

パネルディスカッション パネリスト:辻由美さん、青木洋子さん(多摩市に中央図書館をつくる会代表)、

伊藤久雄さん(NPO 法人まちぼつと理事)、山口源治郎さん(東京学芸大学特任教授・図書館情報学)

参加方法:会場参加(定員150名)とオンライン参加(定員80名) 申込方法:チラシまたは町田の図書館

活動をすすめる会のホームページをご覧ください。

<https://machida-library.jimdofree.com/>

地域の子どもたちがお薦めする図書館の本(第3回)

『走って、悩んで、見つけたこと。』

大迫傑(著) 文藝春秋 2019年

推薦:後藤 悠二(ごとう・ゆうじ) 日本体育大学荏原高等学校3年生



本書の著者である大迫傑(おおさこ・すぐる)さんは1991年生まれ、2018年シカゴマラソンで2時間5分50秒の日本記録を出し、2020年東京マラソンではそれを更新する2時間5分29秒を残した世界的マラソンランナーです。高校時代には2008年全国高校駅伝で佐久長聖高校の初優勝に貢献し、大学時代には2010年全日本大学駅伝と2011年箱根駅伝で早稲田大学を優勝に導きました。2014年には3000メートルで、2015年には5000メートルで日本記録を出すなど、数々の輝かしい記録を持っています。2021年8月の東京オリンピックでは6位入賞しました。

そんな偉大なマラソンランナーの大迫さんは、私の母校、町田市立金井中学校の卒業生です。母校のヒーローである大迫さんは、私が中学在学中に学校訪問をしてくださいました。私は大迫さんがまどうオーラに圧倒され、羨望のまなざしを向けていました。間もなくして、大迫さんの著書『走って、悩んで、見つけたこと。』が2019年に出版されました。私は思わず手に取り、読んでみました。

目次には、「自分の道を選ぶこと。」「どんな結果も受け止めること。」「環境が変わっても生き残る力を持つこと。」「ライバルをリスペクトすること。」「不安をコントロールすること。」など、競技者としての心がまえにも似た言葉が、章名として並んでいます。さらに目次には、コラム「リカバリー&睡眠について。」「食事について。」「ウエイトトレーニングについて。」などがあり、現役選手が欲しがる知識と情報が散りばめられています。大迫さんが後輩のアスリートたちに、自分の経験と研究の成果を伝えたいという気持ちが、そのまま本の構成になっています。以下に私の心に残った箇所を一部紹介します。

大迫さんは「子供たちに伝えたいこと。」の章で、「陸上だけしか知らない人にはなあってほしくない。陸上しか選択肢がない人生よりも、色々なことを経験しておいた方が人生は豊かになる」と書いています。また同章で、「考えることも大切です。(中略)監督やコーチに言われ

たことに対しても、じゃあ自分はどう思うのかをきちんと考える。他人の意見は他人の意見で、ときにはその人にとっての都合のいいことを言うこともあります」と述べています。

私自身は1~17歳まで16年間を水泳に捧げてきました。コーチに言われたことは、間違っているのはいかどと内心思っても、すべて受け入れて練習をしてきました。中学時代に水泳選手として良い成績を収めていた私は高校に優先的に入学させてもらい、水泳部で頑張っていたのですが、だんだんとコーチの指導に疑問を感じるようになってきました。今はもう選手生活は終わっているのですが、今さらながら「あの時コーチにきちんと自分の意見を伝えればよかった」など、残念に思うことが多々あります。

今年4月に入学する大学では、体育教師になるための専攻を選びました。将来は水泳を中学生・高校生に教えたいと考えていますが、体育教師はそれ以外の競技もできなくてははいけません。オリンピックとパラリンピックが去年は東京で、今年は北京で開催され、スポーツ界が盛り上がりました。学校の内外で、体に障害のある人が楽しめるスポーツを指導することや、学齢前の子どもや高齢者に教えることがあるかもしれません。水泳は競技だけでなく、海やプールでのライフセービングもあります。勉強すべきことはたくさんあります。

本書には競技だけでなく、人生でも役立つことが書かれています。私は読めば読むほど過去の自分について見つめ直すことができました。大迫さんはマラソン選手ですが、他のスポーツをしていた人でも共感できる部分がたくさんあります。先ほど引用した「子供たちに伝えたいこと。」は、すでにお子さんをお持ちの大迫さんがご自分のお子さんのことを考えながら書かれたのかもしれませんが。そのため、お子さんを持つ親御さんにも参考になる言葉が詰まっています。

私は大学入試の面接で感銘を受けた本として本書

を挙げ、前述の言葉を自分の体験も交えて紹介しました。すると面接官の先生は、「君は面白い子だね。スポーツや人間関係をわかっている」と言ってくれました。私のどの部分が「面白い」のかはよくわかりませんでした。結果として大学からは合格をいただきました。こ



ひろば

例会 2/22 (火) 報告

・16:00～ 印刷・発送作業等：
清水・鈴木・手嶋・丸岡・守谷
・18:00～20:00

中央図書館・中集会室

出席：石井・金澤・雲中・鈴木(真)・
藪田・手嶋・守谷・山口 傍聴2名

議題

1. 会報について

次号(№264)：巻頭言「今後の運動の進め方について」(藪田)→清原理さんに依頼(タイトル自由)⇒入稿せず。町田市議会議員選挙の公開質問状についてのコメント(鈴木(真))を巻頭に、「こんな本見～つけた！」第35回(未定→雲中)、「地域の子どもたちがお薦めする図書館の本」第3回(高校3年生に五輪マラソン選手の大迫傑氏の著書について書いてもらう予定)、「しんぶん赤旗」購読中止についての情報公開請求について書くのはどうか⇒伊藤裕夫さんに寄稿して頂いた。

2. 今年度の活動計画について

市長選、市議選の結果を受けて、今後の活動を考える。

○講演会

・タイトルは、「図書館は市民の宝物！ー鶴川地域の図書館を考える市民シンポジウムー」に決定。

3. 「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

○鶴川図書館大好き！の会の取り組み

2021年度は鶴川図書館が公立図書館として存続できるよう活動する。シンポジウムのこともあり、どのように存続させるかが課題となる。

○「すすめる会」の取り組み

①鶴川駅前図書館への指定管理導入スケジュール

指定管理者の職員がほぼ決まった。

・2月に図書館の会計年度職員を追加募集している。

②図書館嘱託労との話し合い(記録を作成中)

③市長選挙の立候補者への公開質問状について

質問状と回答を「すすめる会」ホームページのニュー

スの本は私にとってお守りのような本になりました。本書はスポーツが好きな人はもちろん、一般の人にも読みやすく、感じ入ることのできる本です。ご一読をお薦めします。

* 町田市立図書館は、4冊所蔵しています。

ス欄に掲載。市議会議員選挙についても公開質問状を出し、回答を公表。今後の活かし方を検討したい。

・市長は学校司書を公募すると回答している。

・図書館政策に積極的な市議を集めて話し合いを持つことを働き掛ける(議員連盟的なものにといい)。

4. 「しんぶん赤旗」購読中止問題について

「東京新聞」(2/17)の投書欄に伊藤裕夫さんの投稿が掲載された。

図書館はどのような手続きで、購入中止を決定したのか情報公開請求したい。併せて、町田市議会の会議録を調べ、検証したい。

5. 「噂の東京マガジン」(BS-TBS)の取材について

関連資料を提供している段階。最初は指定管理者制度についてという話だったが、官製ワーキングプアについて取り上げたいという意向も示された。取材の意図を確認の上、取材に応じるべきか判断する。

6. 全国図書館大会(群馬) 図友連「市民と図書館」部会における活動報告について

・鈴木(真)が鶴川地域の図書館の状況を報告する。

報告

1. 団体及び個人からの報告

囑託労：再度任用を希望した組合員全員に内定通知が出され、上限4回に達していた組合員のうち公募受験した人も全員合格。対象になっていても受験しない人も。5年ごとに公募を受けなければならない精神的な負担を理由に、町田の図書館を去る選択をした人も。

柿木文庫：コロナ禍のため、2月のおはなし会は、文庫も地域も全部中止した。

藪田：指定管理者制度の導入前と導入後でどのように変わったかを見極めたい。

《編集後記》「鶴川地域の図書館を考えるシンポジウム」の教育委員会後援申請が却下された。理由は「委員会の教育行政の運営に関する方針に反しないものであること」に該当しないためとのこと。鶴川図書館を公立図書館として残してとの市民の願い、図書館の空洞化を招く指定管理者制度に反対することが何故？(T?)